

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	王 湘榕 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】	<p>本研究は、日本語と中国語の指示詞について、特に小説における文脈指示の用法を収集し、日本語と中国語の違いを明らかにしたものである。両言語における指示詞は、日本語は「コ、ソ、ア」の3体系、中国語は“这、那”の2体系であるため、その対応関係は興味深いテーマであり、これまでも多くの研究がなされている。だが、先行研究では、いずれもどのような文脈においてそれぞれの指示詞が対応するかの指摘にとどまっていた。それに対し、本研究は、日本語の指示詞の研究で用いられてきたそれぞれの指示詞の持つ複数の機能、即ち、「解説・まとめ」、「視点遊離」、「中立指示」、「遥かな存在の指示」、「観念対象指示」などの概念を手がかりに、一つの原本に対し、三つの翻訳がある小説（『ノルウェイの森』、『阿Q正伝』）を使い、訳本間で対応する指示詞に違いがあるかも含め、詳細に指示詞の対応関係を調べた。その結果、両言語のそれぞれの指示詞が複数の機能を持つことにより、日本語と中国語の指示詞の複雑な対応関係が生まれること、「視点遊離」の機能を持つ指示詞に違いが見られること、また、指示対象が曖昧になるようないくつかの文脈で、異なる指示詞に訳される可能性が生まれることを明らかにした。</p> <p>第一回審査会では、先行研究に対する本研究の意義が明らかでないこと、日中の指示詞の体系がまだ明確に提示されていないこと、一部の指示詞の用法について、その解釈に問題があること、日本語表現に不備が見られること、参考文献の不備及び形式の不統一などが指摘された。</p> <p>第二回審査会では、事前に送付された修正版をもとに、メール会議を持ち、上記の指摘について、適切に修正が行われていることが確認された。</p> <p>公开发表会においては、パワーポイントを用い、明快に論文の内容が発表され、会場からの質問に対しても、真摯な姿勢で的確に応答した。以上から、最終試験を兼ねた最終審査会では、一つの原本に対し、三つの翻訳本を使うという厳密な方法に基づき、指示詞の機能という新しい視点から日本語と中国語の指示詞の対応関係を明らかにした点を高く評価し、最終試験に合格し、博士（人文科学：Ph. D. in Linguistics）として認定するに値すると判断された。</p>
論文題目	日中指示表現の対照 －二つの小説の翻訳を材料として－	
審査委員	(主査) 准教授 伊藤 さとみ	
	教授 高崎 みどり	
	教授 佐々木 泰子	
	准教授 野口 徹	
インターネット 公表	○ 学位論文の全文公表の可否（ <input checked="" type="radio"/> 可 ・ 否）	
	○ 「否」の場合の理由 } <ul style="list-style-type: none"> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている 	
	※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	